



本丸北角(池の端通りから著者撮影)



樹木保存シナリオ



修景樹保残シナリオ



遺構重視シナリオ

## シナリオアプローチによる高岡古城公園の将来構想

Scenario Approach to the Future of Takaoka Old Castle Park

人文科学系/まちづくり/論文

地域キュレーションコース

松浦 歩美

Ayumi Mastuura

### ◎研究目的

高岡古城公園は公園内の樹木が繁茂による前田利長築城期の遺構、石垣などの保存上の障害や、城郭形状の明瞭さへの悪影響が指摘されており、2023(令和5)年に高岡市によって樹木管理計画が策定された。しかし公園の身近な自然環境としての立場から、樹木伐採によって利害関係者間での価値観の相違が表出する可能性がある。そこで本論文は樹木管理について複数の将来像を検討し、実現後の様子を図化、あるいは文章化によって説明することで将来構想を具体的に示し、市民合意のための基本情報の整理を目的とした。

### ◎方法

高岡古城公園に関する各種報告書、計画、統計、研究成果などによる文献調査、公園管理者による利用状況アンケートの分析から、公園の歴史文化的価値、利用上の価値等を整理した。また、関係者等へのヒアリングを行い、具体的な管理手法や進展状況、植生管理への意図、今後の展望について整理した。その結果をもとに、将来像を描くためのシナリオの作成とイメージ図を作成すべき場所を選定した。

### ◎結論

高岡古城公園の樹木管理によるシナリオとして、3つの方向性を示した。1つ目は曲輪の外郭のみを明瞭化させる樹木保存シナリオ、2つ目が繁茂した樹木を積極的に伐採することにより、史跡としての城郭全体の見通し向上させ、史跡保存上の悪影響の防止に主眼を置いた遺構重視シナリオ、3つ目が遺構保存とともに現在の利用者への快適性の提供にも配慮し、サクラやカエデなどの修景樹木を残しつつ、常緑樹や大径木の排除を行う修景樹保残シナリオである。これらのシナリオに基づいて、遺構としての価値が高くかつ利用者も多い、明丸、本丸北角、石垣についてそれぞれシナリオごとに将来像のイメージ図を作成した。